

都市計画論文にご投稿をご検討いただき、誠にありがとうございます。学術委員会では、ご投稿いただいた論文について、慎重に審査を進めております。この過程で、査読者や学術委員会からよく指摘を受ける事項があります。この事項についてまとめましたので、ご執筆時の確認用にご活用いただければ幸いです。

1. 既往文献のレビューにおける問題点

よく査読者から指摘を受ける事項として、「既往文献を列挙しただけで、それらの体系的な説明と、それに対応した本研究の新規性及び独自の貢献の位置づけが書かれていない」ことがあります。たとえば、

「××計画に関連する既往研究としては、××、○○、△△が挙げられる。これらに対して本研究は、××計画の策定過程における住民参加を分析する。」

とだけ記載されている場合です。これについては、たとえば、

「××計画の策定過程に関連する既往研究としては、委員会議事録から分析を行った××、議事録の自治体間比較を行った△△、計画図の変遷を比較分析した○○が挙げられる。しかし、××計画において地域住民の意向は計画に大きな影響を及ぼすと予想されるにもかかわらず、地域住民が策定に参加したことが計画に与えた影響に関して分析した研究は見当たらない。そこで本研究は、このリサーチギャップの解消を目指して、××計画の策定を住民会議が担った□□市××地区について、策定過程における参加住民の果たした役割を参与観察調査によって分析する。」

というように、既往研究の体系的な説明と、それに対応した本研究の新規性及び独自の貢献の位置づけを明確に述べているかどうか、ご確認ください。

2. 内容に対する目的、結論の対応の不足

よく査読者から指摘を受ける事項として、「内容に対して目的、結論が対応していない」という指摘があります。たとえば、

目的「××計画の運用について指針の提案」

内容「××計画の策定過程における地域住民の役割の分析」

結論「××計画や□□計画を含む○○制度の体系化の必要性」

というように、大きなテーマはひとつ（××計画）であっても、詳細が対応していない場合があります。これは、たとえば、研究着手時に初期の目的として「××計画の運用についての指針の提案」を立てて、調査分析を進める過程で、「××計画の策定過程における地域住民の役割」における興味深い事実を発見し、それが「××計画や□□計画を含む○○制度の体系化の必要性」を実証する知見であることに思い至ったという研究経緯を反映した記述であることもあり得ます。しかし、読者にとっては、内容に対して目的、結論が対応していないために、非常に理解が難しい論文になり、査読者から厳しい指摘を受けることとなります。ですから、投稿前に全体を見渡して、内容に対して目的、結論が明確に対応しているかどうかをご確認ください。

また、「せっかく内容として有用な分析を行いながらも、結論が内容と関係が薄い一般論に終始している」という指摘を受ける原稿も散見されます。内容と明確に対応させて新規性がある結論を導いているかをご確認ください。

3. 目的の明確性の不足

審査においては、たとえば、

「××計画の運用に資する知見を得ることを目的とする」

といった記述に対して、しばしば、目的が明確でないという指摘がなされます。これについては、上記の目的、内容、結論の対応関係を踏まえた上で、たとえば、

「××計画の運用において実際に生じた課題を抽出して体系化した上で、それに対する対応策を提案する」というように、成果イメージを具体的に表した目的を掲げることが望まれます。

4. 原稿の体裁における規定違反

学術委員会の確認において字数、行数などの体裁上の規定違反を指摘されて形式不受理となる、「もったいない」原稿が散見されます。

確認においては、たとえば、句読点の禁則処理の結果としてごく一部の行の文字数が規定を1文字だけ超えている場合や、図表の挿入によって一部の行がずれた場合など、規定範囲に納まっていると見なせるものについては可能な限り受理しております。しかし、規定範囲を超えていると判断せざるを得ない原稿が存在するのも事実です。また、行番号がない原稿や、行番号が本文に重なって判読不能に陥る原稿も散見されます。

提出前に、今一度ご確認をお願いします。